

生涯学習概論2025【レポート1】

思い出に残る／印象深い授業を紹介する。小学校から高校までで。期末レポートの準備作業となります。

提出方法：農大メールの本文として記述する。添付ファイルにしない。また、次の約束を守ること。

件名：生涯学習概論レポート1 [1は全角]

本文：1行目：署名欄とし、学科 学籍番号 [半角] 氏名（よみがな）とする。1行に収める。

2行目：レポートの内容を的確に示すタイトルとする。他のことは記さない。1行におさめる

3行目：小学校から高校までの思い出に残る授業をいくつでも、当該授業の学年と科目を明記すること

文字数：1つにつき400字以下、合計2000字まで

提出期限：5月20日（火） 遅れても提出 宛先：宇仁アドレス y3uni@nodai.ac.jp

感想

- ・内容は面白く興味深いものでした
- ・タイトルも内容がわかるもの、引きつけるものが多くよかったです
- ・文章は原文のままです。書き出しや改行後の1字下げが半角の人がいました。全角です

1. 生物地学農業系

豚の目の解剖実験を行った

高校二年生の生物の授業で目の構造に関する実験を行った。実験内容は豚の目を半分に切り、内容物を取り出し観察する。実験の内容からか、参加できない生徒も多く、私は豚の目を切ることに抵抗がなかったので四人分の豚の目を切ることになったのが思い出に残っている。

豚の頭の解剖の授業

思い出に残っている授業は高校3年生の冬に生物の授業でおこなった豚の頭を解剖する授業です。午前中の授業をすべて使って解剖しました。余った時間は好きに解剖できたため、とても思い出に残る授業でした。

ニワトリの命から「生物産業」を学ぶ

高校が農業系の高校であったため、授業の一環として、ニワトリを雛から育て、と殺までを生徒の手で行う「人と生物産業」という授業が高校2年生の時にあり、印象に残っています。

生物産業と生物のと殺は切っても切り離せない関係にあり、命について考えることができる貴重な経験であったと思います。授業の一環として命を扱うことで、生産者としてや、命を扱うことについての責任を実感でき、生物産業について理解や関心が深まりました。

多くの生き物の観察や解剖をした高校3年時の生物授業の実験

高校3年生の生物の授業では、生物の高校範囲が終わって大学試験勉強に向けて過去問を解くなど演習を受けました。その生物の先生は受験生の息抜きのためにも実験の時間も設けてくれていました。また、児童から生徒時代までで受けてきた授業の中で一番多くの生物種に触れることができました。その中でも思い出に残る実験をいくつか紹介します。

1つ目はイシクラゲの観察です。シアノバクテリア門ネンジュモ属であるイシクラゲは顕微鏡からよく観察しやすく原核生物の中では1つ1つの細胞が大きく、その細胞がいくつも連なる細胞群体でした。また厚い細胞壁をもっており、窒素固定を専門に行うために他の栄養細胞より少し大きく分化したヘテロシストが印象的でした。

2つ目にアフリカツメガエルの解剖です。

アフリカツメガエルに麻酔を入れる所から始めました。また生徒自身が決められた順にお腹を裂いていき脂肪体や肺、胃、肝臓、腸などの内臓の観察とスケッチをしました。心臓は拍動がよく見えたためとても記憶に残っています。また両生類の解剖は初めてだったため、上皮をまず切っていくことから難しく、きれいに解剖するのに苦労がありました。

3つ目にシロアリの行動観察です。

道標フェロモンに似た物質が含まれている黒色のボールペンをシロアリがたどっていき、黒色以外のペンや鉛筆などの上は歩かず頻繁に動かす触覚からその黒ボールペンを認識していることがわかった実験でした。私が驚いたのはボールペンでも黒色以外は反応を示さないことで、実験で青や赤色を準備しているときは黒色だけ道標フェロモンに似ているとは思いませんでした。

4つ目にシダ植物の前葉体の観察です。

造精器はよく分からなかったですが顕微鏡で前葉体の観察をして、裏側にあった突起で周りより少し大きくなっている細胞の造卵器が見られました。なかなか機会がないとできないことだったため嬉しかったのを覚えています。

5つ目にチリモンの観察です。

授業内容は、カタクチイワシの稚魚が食品となってちりめんじゃこになりますが、その中に混じった様々な海洋生物から魚類と節足動物、軟体動物に分類してチリモンの図鑑と照らし合わせて、形態から大まかな種同定をすることでした。大学1年生の基礎実験科目でもチリモンの観察をしたため、これが予習となりました。高3の授業ではタコやシャコ、メガロパ幼生であるカニの仲間、タチウオ、カワハギなど小さくとも多くの種が見つかって、普段は目につかないですが海や河川などでこのような小さな動物いるという実感が湧きました。

標本作りと国語の授業

二つあります。一つ目は高校二年生の時、生物の授業で行った骨格透明標本作りです。骨格透明標本とは硬骨をアリザリンレッドで赤く、軟骨をアルシアンブルーで青く染め、またトリプシンを用いてタンパク質を分解し肉を透明化した標本です。金魚やエビ、イカなど自分がやりたい様々な生物を3週間から一か月かけてホルマリンや水酸化カリウムなど様々な薬品を用いて製作しました。製作期間中は日々、その日の作業内容や気づいたことなどを記録用紙に記述していました。完成したら標本が入った瓶を下からスマホ等のライトで照らすと非常に綺麗です。二つ目は小学校から高校までの国語です。中学受験や高校受験、大学受験の国語の解き方に沿って授業せず、主人公の気持ちや感想を考えさせられ、またひたすら音読をさせられた授業でした。そのためずっと過去問や模試で国語の成績は伸びませんでした。どうして受験に向けた勉強の仕方を授業でしないのかが今でも謎です。

興味深かった川の流れについての授業

私は小学5年時に行った理科の川の流れについての授業が印象に残っています。その授業は、川の流れによって地面が崩れたり砂や石が堆積したりすることを学ぶために自分たちで川を作り実験をしました。まず、型に砂を敷き詰めくねくねした川の形を作っていました。そこにじょうろで水を流し入れました。型に砂を詰めているとき砂遊びをしている感覚で楽しかったです。実際に水を流した際、蛇行している部分の内側に砂が積み外側は削れました。教科書に載っていたことが目の前で起こったため、「本当にそうなるんだ！」と非常に興味深く感じました。また、この実験を行ったことでより一層、理科に対する興味が強くなりました。

2. 物理化学数学系

印象深い高校の授業

高校2年の物理の授業であった、音の授業がとても印象に残っています。

先生が波を発生させる模型を使って音の波長についての説明をしてくれました。

音というのは物理学以外でも音楽でたくさん触れる機会があり

小節や裏拍といったリズムの感覚が模型によって可視化されているようで

非常に楽しかったことを覚えています。

視覚や触覚から勉強をすると、そのことについての習熟度が大幅に上がると思っていて

物理学は特に、体感して理解することがとても有用だなと今でも思っています。

受ける価値のある授業

私が思い出に残っている授業は高校一年生の化学である。授業中眠くなってしまうことは高校生のあるあるだと思うが、この授業を担当していた教師の授業はとても話が上手く解説もわかりやすかったため、思わず見入ってしまう授業であった。そのため私の高校一年生の全教科の中で、一番テストの点数が高かった。このようにその授業に興味を持てる授業は生徒自身にやる気を促し、学力向上の効果があると思う。

高校で思い出に残る授業

私が思い出に残っている授業は高校二年生の教育実習生が教員の代わりに授業をした数学です。

いつもの静かな雰囲気とは違い賑やかな時間だったことを覚えています。実習生は明るい性格で授業外の休み時間に学生が集まるような親しみやすい方でした。

授業では、それぞれが一人で考える時間、グループで話し合う時間と発表する時間があり、大勢の前で話せない人でも授業に参加ができるような授業でした。

ここで実習生は、グループを回り、ヒントを出したり、次の問題を出したりと状況に合った大要をしていたことを覚えています。

授業を通してグループと実習生とも交流が出来楽しく学べ思い出に残りました。

高校時代の化学の授業と中学時代の国語の授業について

高校の化学の先生はよく、教室で薬品の反応を実際に見せてくれることが多い先生でした。ある日の授業で液体窒素が話に出たとき、「じゃあ実際にどんなもんか見てみよう、まだ容器に少し残ってるかも」と言い出し、教室の外に出ていったかと思えば、液体窒素の容器を持ってきて、生徒を一人前に立たせて容器のふたを開け、盛大に振りかけてました。ほんの少しだけ白い煙が立って終わりました。今思うと実際目で見ると記憶によく残るなあと思いました。

次に中学時代の国語の授業についてです。自分の好きな曲の歌詞について長期休みに考察しプリントにまとめ、各クラスで発表するというものでした。友達の好きな曲について知れたり、先生からの鋭い質問など、とても面白い授業内容でした。

3. 社会系

中国人による中国のライフスタイルに関する授業

小学3年生の総合の授業で中国人の方を講師に授業を受けた。教科書では学ぶことのできないような中国のライフスタイルや政治などを教えてもらった。中国での服装や料理を実際に着たり、食べたりと中国の生活を中国に行かずに体験できた。日本との文化の違いについても多く教えてもらった。中国の政治についてもお話があった。小学3年生の僕には少し難しい内容ではあったが、小学6年生での政治経済の授業で結び

ついたものも多かった。講師の方は当時の一人っ子政策を実際に体験した方でその時の心境や自分の考え方についてのお話がとても印象に残っている。

「中国では政治にたてつくことができない」というセリフが当時の中国の現状を表しているように感じた。

自分にも差別意識は眠っていると気付かされた道徳の授業

中学校2年生の道徳の授業が印象に残っている。その授業では差別にまつわる動画を見て感想を書き、発表をしていた。発表が終わった後に、先生が挙げる職業の名前を聞いて、その職業に就いている人が働いている様子を想像するゲームがあった。消防士、医師、看護師など、次々と挙げられていく職業名を聞いて想像したのはクラス全員がそれぞれ同じ性別だった。当時の私は、差別はある特定の人がしていることで、自分は差別をする人間とは違う世界に生きているのだと思っていた。この授業はどんな人にも根底には差別をする素質が眠っていることを知らしめられたため、今も思い出に深く残っている。

社会や職業を考える機会になった製鉄所での見学が印象深い授業である

小学校3年生か4年生の社会の授業で行った社会科見学が特に思い出に残っている。私の小学校は工業地帯に近かったため、JFEスチール東日本製鉄所を見学した。敷地内が広がったためバスで移動しながら職員の方に話を聞いたり、施設内に入って実際に鉄が作られている現場を見た。真っ赤に燃えている鉄がコンベアで運ばれていたため工場の中は非常に空気が悪く、蒸し暑い空間で息が苦しかったのを覚えている。自分たちが何気なく使っている鉄はこんなに過酷な環境で作られていることを間近で知ることができたため貴重な体験だった。社会の教科書などでもともと工場については学んでいたが、実際に足を運ぶことでその場のリアルを感じ、自分の中で社会のことや職業のことなどを深く考えるきっかけになったため印象に残っている。

経験が活かされるピアサポートの授業

私の印象的だった授業は中学の時に受けたピアサポートの授業だ。ピアサポートは悩んでいる人が同じような経験を持つ人と交流してお互いに支え合う活動のことであり、これを授業で扱っている学校は少ないように思える。その人の抱える悩みが複雑でも話を聞いていくだけでもそれが軽減することがある。これを意識するために生徒同士でチームを組んでお互いの話を聞いていく。よく見知った人でも思いがけない悩みを抱えていて意外だったのを覚えている。中高生の時はあまりこのピアサポートの有用性を実感出来なかったが、大学に入り今までとは異なる人間関係を気づくようになってからこの授業の経験を活かす機会が増えた。中学の時は何故やっているのかわからないほど興味のなかった科目に今助けられている。そのため中学生のうちに学べてよかった、もう少し真面目に聞いておけばよかったなど色々思うことがある印象的な授業だ。

学活で行われた裁判

小学校の学級活動の時間、素行の悪い児童を一人槍玉に挙げ、更生させるためにはどうしたらよいか議論したことがあった。コンビニのWi-Fiでゲームをするために店の前に長時間座りこんでいたり、下校時に家へ帰らずどこかへ行ってしまったりするという。

ペナルティを設けようという意見も出たが、注意していこうという程度でまとまった。授業の最後では議題の児童が半泣きで謝罪をした。皆の前で糾弾され、可哀そうも見えた。

しかし私はこの授業を非難したいわけではない。その児童のことは当人の保護者も問題視しており、学活の議題にまでなるのもうなずけた。何より議論の姿勢が良かった。クラス対一人の状況だからこそ慎重に進められ、ペナルティの提案は良心によっておさえられた。注意していこうという結論も、皆の議論の末に示

されたことで大きな意味を持った。

この授業は社会で言う裁判だった。一見可哀そうだが、議論も結論も悪くなかったと思う。

世界を知るための調査

小学校6年次の総合の授業にて先生から自分の好きな国について1つ調べなさいということがあった。ここまでの話であれば記憶に残らないただの授業であろうと思われる。ただ調べて人の前で発表するだけだと思っていた。しかし、先生から発せられた次の言葉は「パソコンを使っても構わないがもっと詳しく知りたい国について教えてくれる人がいる。大使館に手紙を送ってください。」と。この言葉は驚くし、今でも記憶に残っている。一小学校の生徒が大使館に手紙を送り資料を郵送してもらうということはなかなかできない体験ではないかと思う。この授業はあまりに衝撃を受けこれからの自分の調べものの際の一つの選択肢に直接大元に聞きに行くことが増えた瞬間だったと思う。

職場体験実習

私が今までの学校の授業の中で1番印象に残っている授業は、中学2年生の際に行った職場体験の授業です。この授業は、班ごとに分かれて体験したい職場先の候補に自らアポをとり、1日かけて業務の手伝いをさせてもらうものです。私は、ビジネスホテルに職場体験をしました。ひとつひとつの部屋をメイキングしたり、宴会場のセッティングをしたりなどの体験をしました。大変だったのはもちろんそうですが、他の人との連携をとったり、周りを見回すことの大切さなどをその授業を通して学ぶことができました。

4. 国語英語言語系

読書の視野を広げ、より楽しむきっかけとなった国語の授業

小学4年国語の単元「ごんぎつね」で、単元の最後に本文のその後を考えるという授業を行った。私は、ごんの亡き後の兵十の暮らしを書き、最後にごんの墓にお供え物をあげるという話を書いた。物語の続きを考えることを今までしたことがなくとても新鮮な経験で、この授業以降日常で触れる様々な物語を、続きや鍵となる行動が変わっていたらなどを考えながら読むようになった。

中学1年国語の単元「少年の日の思い出」でも、物語の続きを考える授業を行った。私は、最後に少年が潰した蝶の視点から続きを書き、実はその蝶は少年が捕まえる前にエーミールが取り逃しており、エーミールは少年がその蝶を捕まえていたことを羨んで難癖をつけていたという話を書いた。ごんぎつねの授業では、先生に提出して丸を貰うだけだったが、この授業ではグループワークで他の人から感想を貰い、他の人が考えた続きも読むという活動を行った。短い感想でも嬉しいと感じた。また、思い思いの続きを読み、同じ文章を同じように読んでも、考えることが変わることが面白いと感じた。

今も読書をする、読み終えた後に登場人物のその後を考えることがあり、これにより読書の満足感が増していると感じる。この習慣のきっかけとなったこれらの授業が今もとても印象に残っている。

詩の暗唱の時間

小学6年生、国語の授業でした。私のクラスだけ、授業の初めの15分程を使い、詩の暗唱をしていました。担任曰く、これからに役立つからとのことで『方丈記』『春望』『吾輩は猫である』など沢山の詩を読みました。中学生当時も印象深い時間だったなとは思っていましたが、今思えば、時間が経つにつれ更に印象深い授業になっています。また、同じような理由で百人一首も日常的に行っており、当時程ではありませんが今も70句くらいは覚えていると思います。私たちの将来のことまで考え、時には私たちを小学生としてではなく、1人の人間として見てくれた担任の授業だからこそこまで印象に残っているのではないかなと思い

ます。

思い出に残っている興味深い授業

私の思い出に残っている授業は二つある。一つ目は小学校4年生の時に社会の授業で受けた太平洋戦争についての授業だ。この授業では社会の授業の一環で東京大空襲を経験した方を小学校に呼んで戦争の経験について語った授業があった。この授業が私が戦争について詳しく知るきっかけとなった。東京大空襲を経験した話を聞いたとき私はとても恐怖を感じた。そこから平和の尊さ、戦争は二度と起こしてはいけないことを学んだ。今年で終戦から80年を迎え、戦争を経験した人が年々少なくなっている中で戦争を経験した人から話を聞いたことはとても貴重な経験であった。これからは私たちの世代が戦争と平和について次の世代に語っていかなければならないと感じ、とても思い出に残る授業であった。

二つ目は高校3年生の時の英語表現の授業だ。この授業は担当の先生がとても面白かった。私の高校はいわゆる自称進学校であり全ての授業が面白みもなくただ淡々としていてただ言われたことを行うという感じで退屈であった。そんな中この英語表現の先生だけは他の先生とは違い面白い授業をしていた。具体的には学校への批判、学校の方針とは異なる授業内容を行ったりしていた。しかし学校の方針と違った授業をしていても英語について今までより深く学習することができた。この先生はこの学校の先生の中でも変わっていて普通だったらこのことは上から注意されて止めさせられていただろうと思う。しかし生徒の間では人気があり、その先生の行動は誰からも注意されなかったと語っていた。私はこの学校の方針に批判的であったが同じ意見を持つ先生がいてとても信頼が持てて心から楽しめる授業でありとても思い出に残る授業であった。

オノマトペの衝撃

小学校2年生国語で行った、オノマトペの授業が思い出に残っている。それまで、日常生活で当然のように使っていた「きらきら、ふわふわ、ちくちく」などの言葉にそもそも名前があることが衝撃として大きかった。また、その当たり前が実は日本だけでしか使われていないと知ったとき、あたりまえがあたりまえじゃなかった驚きで強く記憶に残っている。

5. その他いろいろ

思い出の授業

私は、小学4年生の家庭科の授業で調理実習を行った。班の人4人で鮭のムニエルを作る授業だった。私は、普段家で料理はしていなかったので料理は得意ではなかったため、調理実習は嫌いな授業だった。不安になりながらも授業は始まった。先生の話をしっかり聞きながら取り組んだ。しかし、途中で材料の入る量を間違えたり、少し焦がしてしまったりと失敗してしまうことが多かった。それでも、班の人たちに手伝ってもらいながら一生懸命頑張って作った。調理実習の授業はいつもの授業の数倍長く感じた。出来上がった鮭のムニエルは、焦げていてあまり美味しそうではなかった。みんなでいただきますをして1口食べた。その鮭のムニエルが見た目とは裏腹にとっても美味しく、感動したことを今でも覚えている。初めて一から自分で作った料理で、他の料理にも挑戦してみたいと思えるようになった。この調理実習は、強く心に残る良い授業となった。

私は、小学5年生の国語の授業で物語の音読で丸読みをした。その日は授業参観で、多くの親が見に来ていた。この音読の丸読みでは、自分の番が来て1文を読み、その文を1文字でも間違えて読んでしまうとその場で起立し、1周してまた自分の番が来た時に間違えずに言えたら座れるという少し変わったシステムとなっていた。私は、この音読で今まで一度も立ったことがなかったので、今回も大丈夫だろうと思っていた。

しかし、授業参観の緊張からか1周目で間違えてしまった。私以外は誰も立っておらず、この日クラスで最初に立った。1周するまでその場所で立っていないといけなかったので、とても恥ずかしかった。また、1周するまでとても長く感じた。その日は結局、私だけが立つことになった。この授業は、授業参観ということもあり苦い思い出として残った。

思い出に残る教科

私が思い出に残った教科は、高校1年で学んだ華道です。周りから見た授業で華道って学ぶの？と思われるますが、私立の女子校だったのでありました。

主に華道は、生け花を学びます。私も最初は上手く出来なくて落ち込んでしまったけれど、先生が「生け花は芸術であり、個性であるものだよ」と言ってくれたことはとても嬉しかったです。

冬休みの宿題では誰よりも上手く出来て、先生に褒められたことは今でも心に残っています。

「ライブ」という先生が演奏するギターに合わせて歌うだけの授業

私の中で強く思い出に残っている授業が1科目ある。授業名は「ライブ」であった記憶がある。私が小学3年生だった時の担任の先生が持っていた授業のひとつで、先生がアコースティックギターを演奏するのに合わせてクラスの生徒みんなで合唱するだけのものであった。生徒たちも自分たちが歌いたい曲、先生に演奏して貰いたい曲をまとめた歌集を作り、主体的に授業に参画していたことを覚えている。

小学3年生に進級した直後の当時の私にとっては社会科や理科など、勉強しなければならない科目が増えたことで、学校に対して消極的なイメージを抱くことも増えていた。しかし、この授業のおかげで直前に述べた消極的なイメージがある程度緩和されたこともまた事実であり、私にとって学童期の人格形成にとっても影響があった授業であると思う。